

品番 LGDC1100NLE1 LGDC1100VLE1
LGDC1100LLE1

お願い 施工時、使用の前に検知範囲、点灯保持時間などの調整が必要です。説明書を必ずお読みください。

お客様へ 器具の施工には電気工事士の資格が必要です。必ず販売店、工事店に依頼してください。

工事店様へ ■施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。この説明書は必ずお客様にお渡しください。
■施工説明に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

■お守りいただく内容を、次の図記号で説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告

■ 天井

●次のような場所には取り付けない

火災・落下によるけが、天井材破損のおそれがあります。

- ・強度のない薄い天井面
- ・ロックウールなどのやわらかい天井面
- ・傾斜した天井面



禁止

- ◎この器具は水平天井面埋め込み専用です。
- ◎石膏ボード(9mm以上)に取り付けできます。

●特殊な断熱・遮音・防音施工された天井には取り付けない

過熱して火災のおそれがあります。

日本照明工業会SB・SG I・SG形適合品

マット敷工法

ブローイング工法



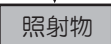
●照射物近接限度内にドア開閉範囲や家具などの可燃物が近づかないように考慮して取り付ける

守らないと、照射物の変色、火災のおそれがあります。

照射物近接限度 10cm



(ドア・家具・布などの可燃物)



●本体を埋込穴に確実に押し込む

押し込みが不十分な場合、ガタツキ、器具落下のおそれがあります。

■ 壁スイッチ

●調光機能が付いた壁スイッチの場合は、一般の入切用スイッチに交換する

火災のおそれがあります。



必ず守る



◎販売店、工事店に交換を依頼してください。(取り外しには資格が必要です。)

■ その他

●器具の取り付けは、説明書に従い確実に行う

取り付けに不備があると、火災・感電・落下によるけがのおそれがあります。

●交流100ボルトで使用する

過電圧を加えると過熱し、火災・感電のおそれがあります。



必ず守る

●電源線は端子台カバーの上から端子台の差込穴の奥まで確実に差し込む

端子台カバー外れや差し込みが不完全な場合、火災・感電のおそれがあります。



禁止

●屋内配線の電源、ケーブルなどは器具に接触させない

火災のおそれがあります。



必ず守る

⚠ 注意



水ぬれ禁止

●浴室など湿気の多い場所や屋外で使用しない

火災、感電の原因となることがあります。

◎この器具は、防湿、防雨型ではありません。



必ず守る

●器具の取り付け取り外しは手袋など保護具を使用する
けがのおそれがあります。●配線図通りに接続する
器具破損のおそれがあります。

施工前にお読みください

設置場所についてのご注意

●次のような場所には取り付けないでください。

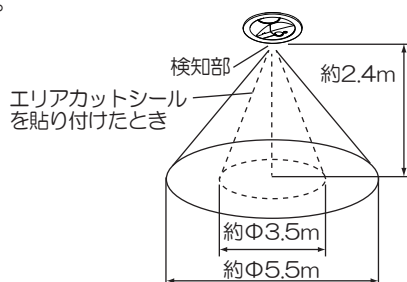
この器具は、周囲の明るさと温度変化をセンサで検知して動作するため、以下のような場所に取り付けると誤動作の原因となります。

× 反射の強い床面のある場所 	× 風などでよくゆれるカーテンや植物の近くなど 	× 取り付け高さが3mを超える場所
× 急激な温度差のある場所 	× 他の照明器具や壁に近い場所 	× エアコンの吹き出し口、換気扇の近く

センサの検知範囲とエリアカット

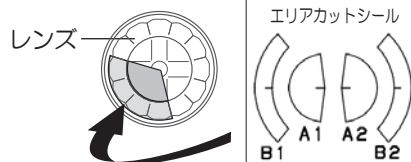
＜検知範囲の目安＞

- センサはおおよそ下図の「検知範囲」で検知します。
下図の「検知範囲」を参考にしてください。
（記載の検知範囲はあくまで目安としてお考えください。）
- 検知範囲は、付属のエリアカットシールを取り付けることで狭くできます。
- エリアカットシールを貼り付けて検知範囲を調整できます。



エリアカットについて

- 検知範囲を調整したい場合は、検知部のレンズに検知エリアカットシール(付属)を貼り付けて、エリアを狭めてください。



方向を合わせ
貼り付ける
（レンズの
外周に合わせる）

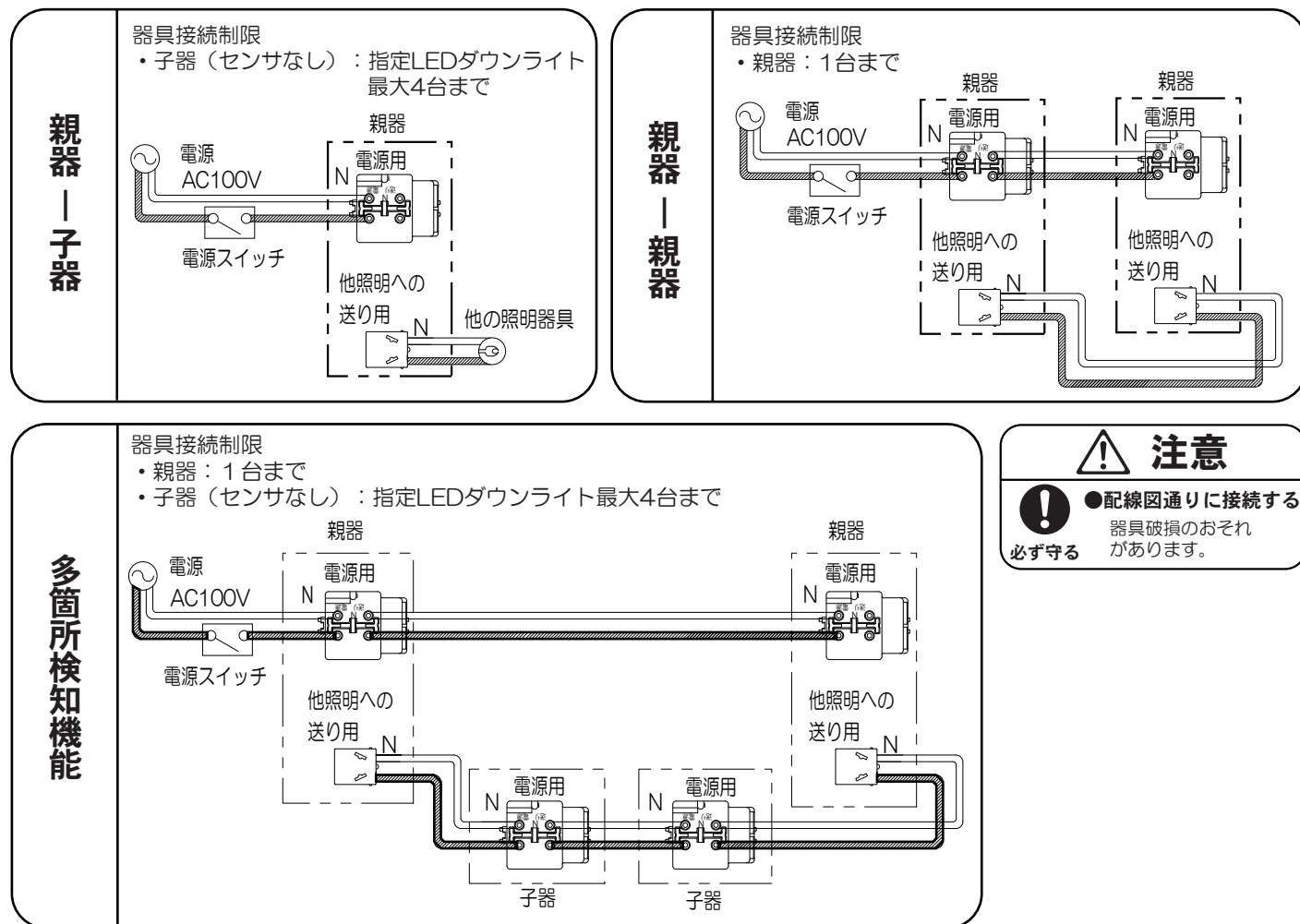
ご注意

- この器具のセンサは、熱源の温度変化を動きとしてとらえます。そのため、動物など人以外の動きも検知して照明が点灯する場合があります。また、静止状態の人などは検知しない場合があります。
- 検知範囲は気温、服装、移動速度、進入方向、体温、器具の取り付け高さや方向などにより変化します。
- 夏場など、気温が体温に近い状態になると、温度変化が小さいため検知しない場合があります。
- センサの性能上、器具に向かってまっすぐ近づいた場合、器具の近くまで近づかないと検知しないことがあります。器具の呼称ではありません。
- 検知エリアの周縁部分は場合により検知しにくいことがあります。

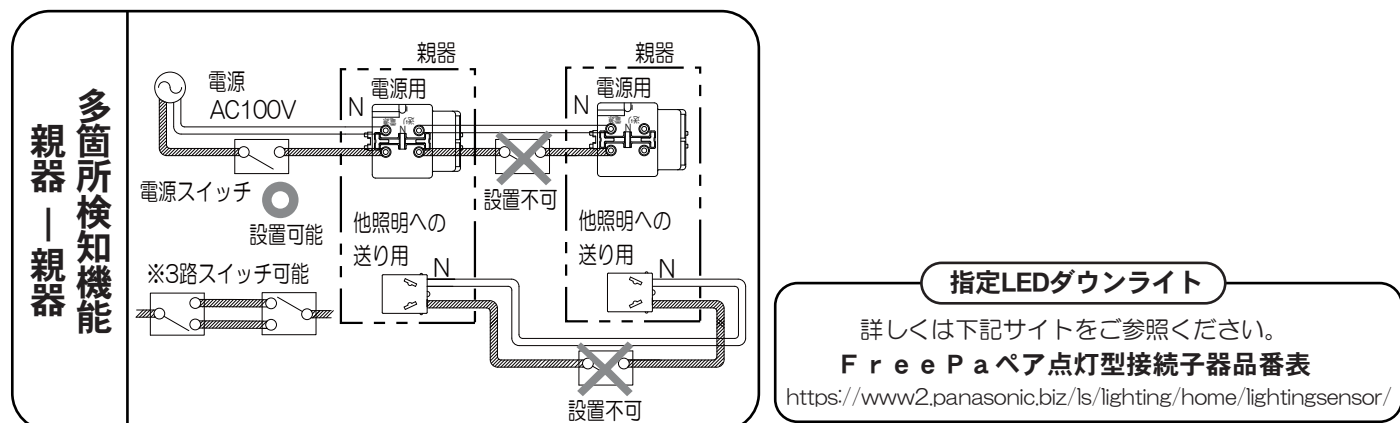
配線についてのご注意

- 必ず壁スイッチを設けてご使用ください。（スイッチは別途ご用意ください）
- ・連続点灯への切り替え操作ができません。
 - ・センサによる点灯モードに異常が発生したとき、リセットできません。
 - ・壁スイッチの設置箇所には制限があります。
- ベア点灯（親器-親器、多箇所検知）で親器2台を使用する場合、壁スイッチは1台目だけにのみ設置できます。
- 3路スイッチは電源から1台目の親器の間でのみ設置できます。
- 接続した器具はセンサ付器具の点灯モードと同じ動作をします。
- 通常は壁スイッチをONにした状態でご使用ください。
- ほたるスイッチと接続する場合は器具1台につきスイッチ3個まででご使用ください。
（4個以上のほたるスイッチと接続すると、スイッチを切にしても器具が消灯しないことがあります。）
- 壁スイッチにパイロットスイッチを使用すると、壁スイッチがON状態でも照明器具が消灯状態（センサ待機状態）のときは、パイロットスイッチ表示が点灯しない場合があります。（故障ではありません）
- ベア点灯（親器-親器、多箇所検知）の場合、必ず接続線の極性を合わせて配線してください。器具が破損するおそれがあります。
- 別の照明器具を制御する場合、制御可能な器具には制限があります。

【配線図】



【スイッチ設置箇所】

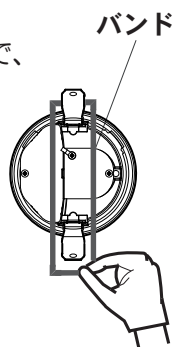


各部のなまえと付属部品

施工する前にまず付属部品をご確認ください

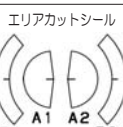
取り付け前のご注意

- ・表面に凹凸のある天井の場合は、気密性が損なわれるおそれがありますので、平面に仕上げてください。
- ・バンドを外してください。
- ・器具の取り付けは、手袋など保護具を使用してください。

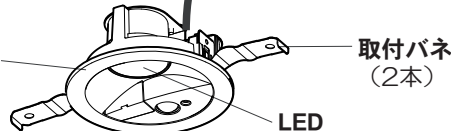


付属部品

□ 検知エアカットシール(1枚)



3 本体



1 埋込穴

2 電源線

2 端子台カバー(半透明)付端子台
※端子台カバーは取り外さないでください。

取付バネ(2本)

LED

照明器具を取り付ける

安全のため、電源を切ってから行ってください

1 天井に埋込穴をあける

- ・天井の厚さにより、下記寸法の埋込穴をあける。

天井の厚さ	埋込穴寸法
5mm以上 9mm未満	$\phi 100 \pm 1 \text{ mm}$
9mm以上 25mm以下	$\phi 100 \pm 2_0^2 \text{ mm}$

※指定寸法でない場合、すき間がきます。
精度よく穴をあけるために、ダウンライトカッターの使用をおすすめします。

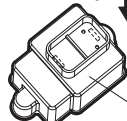
2 端子台に電源線、送り線を接続する

- ・送り総容量は4 A以下です。
- ・電源線は端子台カバーの上から端子台の差込穴の奥まで確実に差し込む。

適合電線： $\phi 1.6$ 、 $\phi 2.0$ 単線
VVFケーブル

12±2mm

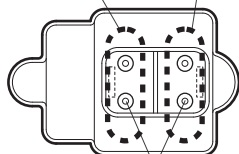
確実に
差し込む



端子台カバー(半透明)付端子台

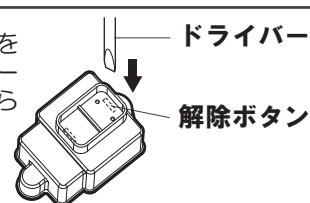
送り側

電源側



N側

器具の取り替えなどで電源線を外す場合はマイナスドライバーなどで解除ボタンを押しながら電源線を引き抜く。



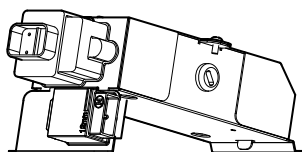
ドライバー

解除ボタン

⚠ 注意

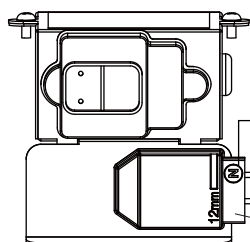
⚠ 端子台カバーは取り外さない
取り外して使用すると故障の原因となります。

- ペア点灯する場合は、誤結線防止ラベルを剥がしてから行ってください。



剥がす

誤結線防止ラベル



N側同士を
接続する。

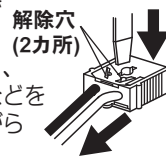
ペア点灯器具の
電源線

12±2mm

送り専用：端子台カバー(半透明)付端子台

電源線は端子台カバーの上から
端子台の差込穴の奥まで確実に差し込む。

器具の取り替えなどで電源線を外す場合は、端子台カバーをめくり、マイナスドライバーなどを解除穴に差し込みながら電源線を引き抜く。

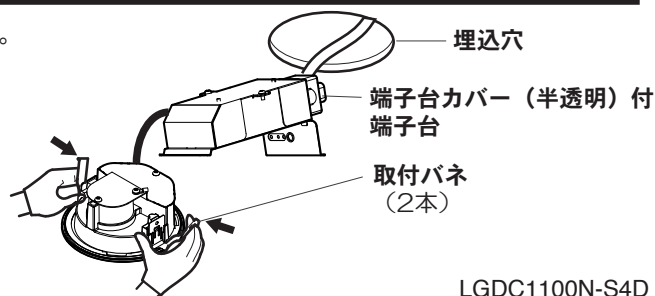


注意 接続する線を間違えると、故障の原因となります。

3 本体を埋込穴に入れる

取付バネ(2本)を押さえながら、端子台側から埋込穴に押し込む。

- 石こうボードに取り付けた器具を取り外す場合は、枠部をゆっくり引き下げて取付バネ(2本)を押し曲げながら取り外してください。取り外しに不備があると、天井材破損の原因となることがあります。

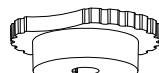
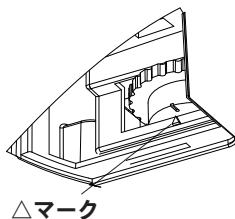
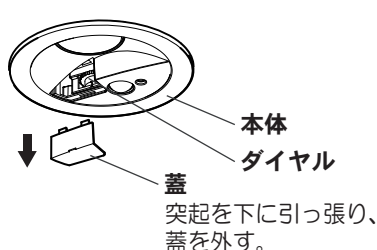


LGDC1100N-S4D

検知範囲とダイヤルを設定する

昼間でも設定できます

1 蓋を取り外す



ダイヤル

ダイヤルの一部は切り欠いた形状になっていますが、不良ではありません。

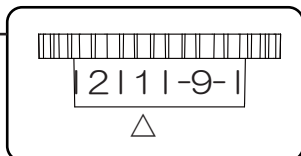
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	暗	暗	暗	明	明	明	切	切	切
	10秒	1	3	10秒	1	3	10秒	1	3

表示ラベル

蓋の裏側に貼り付けています。

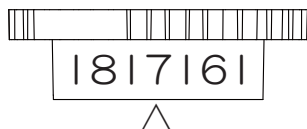
2 検知範囲を設定する

出荷時の設定



【手順】

- ①壁スイッチをOFFにする。
- ②ダイヤルを以下の設定(7)にする



- ③壁スイッチをONにする
- ④センサの検知範囲の外に出る

・照明が約40秒間点灯してから消灯します。

「消灯しない場合は以下の原因が考えられます。」

・センサの検知範囲に入っている⇒センサの検知範囲から外に出る

- ⑤照明が消灯したら器具に近づき、検知範囲を確認する
- ⑥検知範囲を変更したい場合は、エリアカットシールを貼り付ける
☞ 2ページ「センサの検知範囲とエリアカット」参照

3 使い方に合わせて操作ダイヤルを設定する

・点灯保持時間（約10秒、約1分、約3分）、ひとセンサがはたらきはじめる周囲の明るさ（明、暗、切）を設定する。
下表を参照してください。

点灯する周囲の明るさ	暗	明	切
動作	周囲が暗く（約5lx）なり、人が近づいた場合点灯します。人が検知範囲からいなくなってから、設定された点灯保持時間後に消灯します。	周囲が少し明るいうち（約25lx）から、人が近づいた場合点灯します。人が検知範囲からいなくなってから、設定された点灯保持時間後に消灯します。	周囲の明るさに関係なく、人が近づいた場合点灯します。人が検知範囲からいなくなってから、設定された点灯保持時間後に消灯します。
ダイヤル設定例	<		

(注意) ・ダイヤルが“カチッ”とするまで回してください。

・検知範囲に人がいても静止している場合、設定保持時間後、消灯します。

4 蓋を取り付ける

